「愛の家」ニュース　NO. 20　2011年4月

＜ご挨拶＞　『　良きサマリヤ人のように　』

グッド・サマリタン・チャーチ協力牧師　久保賢太郎

イエス様は「良いサマリヤ人」のたとえで、敵をも愛する愛を教えて下さいました。
神を第一にして生きていたはずの祭司が、そして、次にレビ人が強盗にやられて助けを必要としている同胞のユダヤ人を見殺しにして通り過ぎて行きました。三度目に現われたのは、ユダヤ人と敵対関係にあったサマリヤ人でした。(彼等は、現代の私達には理解出来ないほど、互いに増悪していました。) 助けてもらえる望みは全く断たられました。然しそのユダヤ人の思いとは反対に、考えられぬ程の手当てと援助を受けました。

現在、世界中で活動している赤十字の創立の精神はイエス様のこの隣人愛に源がありますし、その他多くの福祉、慈善団体の中に受けつがれています。『ヨハネ8：48』によれば、イエス様は「あなたはサマリヤ人で悪魔につかれている。」と非難攻撃されました。イエス様は御自分が語られた『良きサマリヤ人』と同じく私達のために犠牲を払い、助けて下さいました。 然し、イエス様の語られたこのたとえで、見落としてはならないもう一つの大切な点は、サマリヤ人は宿屋の主人にならなかったことです。
良きサマリヤ人は、傷ついた人のその後のお話を宿屋の主人に話し、その上、支払うべきものは自分が帰りに支払うことを約束して、自分の仕事に出かけて行きました。ここには教会と福祉に関する教えがあるのではないでしょうか。確かに福祉はイエス様の愛の実践ですが、それだけに集中するとやがて霊的な欠乏に陥いって、はじめの目的から外れた活動になったり、活動する人材の育成・提供もままならぬ様になってしまいます。これは多くの社会福祉の歴史に刻まれた教訓です。幸い「愛の家」の活動が、実際的支援と霊的な導きの両面でなされている事をいつも感謝していますし、今後もそうである様に祈っています。（ルカ　10：23～37）

＜ご挨拶＞　石垣の破れ口に立つ者の働き・「愛の家」

「愛の家」運営委員会書記　在日大韓・布施教会牧師　全　聖　三

「この地を滅ぼすことがないように、わたしは、わが前に石垣を築き、石垣の破れ口に立つ者を彼らの中から探し求めたが、見いだすことができなかった。」　エゼキエル22:30

大津波が、その威力がすべてのものや尊い多くの命を押し流してしまった。ある人は「神様は何故、こんな酷いことをなさるのか」という。沈黙を守られる神様はそのことに答えられないと思っているようだ。でも、疑問に思われる方は是非、浪速教会に来てほしい。その「愛の家」の活動、ホームレス救済活動を見て、神の愛を体で体験してほしい。今も神様は大きな声で語っておられるということを知ってほしい。

私は月に一度のペースで「愛の家」の働きに参与している。いや、その場で流れる神の恵みに預かっている。まさに一人の魂は地球よりも尊いと言われる神の愛を肌で感じている。韓国からの宣教師、金牧師が偉いと思うがそれだけでない。牧師夫人の心の奥底から出る讃美も凄いがそれだけでない。無償で働くスタッフの姿も感動するがそれだけではない。目に見えない神がそこに臨在されているのだ。

かつては上の御言葉のように破れ口に立つ者がいなくて神は救えなかった。しかし、人生の破れ口を体験した人々に十字架という破れ口に立ったイエスが救いの手を差し伸べているのだ。また次回に浪速教会「愛の家」の活動に参与することが楽しみだ。

「愛の家」の風景

www.ainoie.org

①木曜集会の食事　목요집회후의 식사

②木曜集会―韓国青年訪問　목요집회

↓ 후드뱅크빵을　봉지에　넣는

③木曜集会―関西地方女性会/ 목요집회-관서지방여성회

④フードバンクからのパンの配り準備作業

⑤金曜炊き出し　금욕공원무료급식

⑥木曜集会シオン聖歌隊公演/

⑦金曜夜回り/금요야간무료급식

⑧衣類分配 西成公園/의류분배 니시나리공원

「愛の家」 近況報告

《 宣教チームの訪問 》2p写真②

今年の冬には4チームの宣教チームが本教会に来ました。1月はテグ三徳教会(25名)、2月はオサン長老教会中高生(16名)、大田永楽教会(14名)、ダビデの世代宣教会中高生(22名)の4チームが私達の教会に訪ねて来ました。宣教チームの中には3年連続の人もいますが、多くの人は初来日の人が多く、最初は日本語の会話の事で悪戦苦闘していました。でも、伝道集会を重ねていくなかで、「神の祝福」により片言でも会話出来る様になり、特別伝道集会・夜回り・主日礼拝等を私達と共に開き、野宿生活者・失業者一人一人にイエス様の「愛と福音」を宣べ伝える為、一生懸命に奉仕をしてくれました。伝道集会では多くの野宿生活者・失業者の人々を招き、牧師先生の説教、青年達の讃美・ワーシップダンス・聖劇などを通して福音を宣べ伝え、又、野外での炊き出しで明るい笑顔で「イエス様は貴方を愛しています。」と伝えると、野宿生活者達も厳冬の中で沈んでいた暗い表情から『ニコッ！』と笑顔に一変し恵まれていました。そして、青年達は「日本と野宿者の宣教の為、帰国してからも祈り続けます。」と力強い言葉を残して日本を離れました。

《 花　見　会 》

4月4日、毎年恒例の花見会を浪速教会の信徒達約20名が参加して堺市の浜寺公園で催しました。この花見会の目的は、この冬に来日した各宣教チームへの奉仕活動、又、日頃の各伝道集会での奉仕活動等での体の疲れを癒し、心身ともリラックスさせる事です。(何分、写真の通り高齢者の奉仕者ばかりで・・・・・・・。)

桜花の下では教会から持参した弁当を開き、舌づつみし、各自楽しみながらこの花見会を満喫していました。食後は神に与えられた大自然の中でゼスチャーゲームや踊り・賛美歌の喉自慢大会等を楽しみ、最後は賛美歌を大合唱をして終わり恵まれた花見会の一日となりました。又、各自が明日からの奉仕活動が喜びを持って出来る事を確信しながら車中の人となりました。これら全ての事を神様に感謝します。

《 東北関東大震災 被災地の奉仕 》

今回の東北関東大震災により大きな被害を受けられた被災地の皆様方には心より御見舞い申し上げます。当教会でも若手の女性信徒とその友達、数名が被災された人々の御助けをさせて頂く為、4月の初めに被災地に向け出発しました。彼女(The F の女性メンバー)らは、これまで何回も海外でのボランティア活動の経験が有り、又、ボランティア活動も常に積極的で海外では世界の貧困地域で寝食を共にしながら奉仕活動を行い、国内では野宿生活者・失業者に対して気軽に笑顔を絶やさず話しかけ彼等の心のケアーを行っています。彼女達は女性信徒が少ない当教会では貴重な人材でありマスコット的存在です。彼女らはこの経験をいかし被災された方々の何らかの手助けになればと思い出向しました。今は、大変なご苦労や心労があると思いますが一日でも早く復興し元の平安な生活が営まれるよう日本・海外の人々が応援しています。私達、当教会でも信徒一同が朝晩の祈り会を通して被災された方々の為に、切にお祈りしています。「頑張って下さい」

《 木曜伝道集会・日曜伝道集会 》2p写真①③⑥

木曜・日曜集会に最近は 100 名近くの失業・野宿者の方々が来られます。木曜集会では AM.8:30 に入場し、9:00 からは支援者から頂いたコーヒーを飲みながらキリスト関係のビデオを鑑賞やシャワーを使用したりしてリラックスされています。礼拝の時間に成ると姜貞淑師母の素晴らしい歌声の導きにより賛美を合唱し、それから礼拝へと進み、毎週、各先生方が説教の奉仕をして下さいます。奉仕して下さる先生方は当教会の金鐘賢牧師任を始め朴栄子牧師任(豊中第一復興教会)・金景淑伝道師任(ホザナ教会)・全聖三牧師任(布施教会)・ベス宣教師(賛美の奉仕)の各先生です。多くの兄弟達が各先生方の恵み溢れる御言葉を聞き感動を覚えイエス様を信じる様に祈ります。又、各週の主日礼拝集会では PM.1:00 から金鐘賢牧師任が奉仕されています。そして両集会共、礼拝の後は食事が配布され、参加者が共に交わりながら食事しておられます。尚、日曜日が丼物で木曜日がランチ形式のメニューに成っています。最近では、以前料理の達人だった2人が奉仕に加わり、〝昔取った杵使〟で支援者の皆様から頂いた食材を満遍なく使い、腕を奮っています。お蔭様でメニューの幅も増え味も一段と増し、参加者からは「レストランで食事しているみたいだ！」と絶賛されています。私達もイエス様が送って下さった2人に感謝すると共に主に感謝しています。

《 金曜炊き出し会・衣類配布会 》2p写真⑤⑧

毎週、金曜日には野外(西成公園)でのジャンボお握りと味噌汁を配布する炊き出し会を行ってます。その日は早朝より準備にかかりお米(平均45kg)を使用し、ジャンボお握りを毎回250個程を奉仕者の皆様(12～15人)と共に作ります。又、支援して下さったお米で作る時は支援者のお名前を発表し、感謝しながら握っています。作業終了後は全員で賛美歌を唱和し炊き出しの場所へ出向きます。すると、野宿している兄弟達はすでに並んで待っています。特に今年の冬の様に厳寒の場合は、私達の到着を今か今かと200M にも及ぶ列を行儀良く並んで待ってくれています。又、炊き出し会と同時に皆様から頂いた衣類を配布する週もあります。寒さが厳しい時などは、お握りの配布前に衣類配布場所に行き衣類を求めている人もいます。自分の求めたいた物を手に入れると満面の笑顔で私達に御礼を言ってくれます。本当に支援者の方々に心から感謝します。此れからも暖かいご支援を御願いします。

《「教会学校」大好きな子供達！ 》2p写真④

教会学校の子供達は何時も元気に子供の主日礼拝に参加しています。まだまだ人数的には少ないですけど、姜貞淑師母(牧師婦人)の指導の元に、一人一人が大きな声で賛美歌を歌い、讃美に併せてダンスをし、又、暗唱句を一生懸命に暗記し、御言葉を真剣に聞き、自分の為、友達の為に祈っています。小中学生をはじめ3～4才の子供達が小さい手を合わせて心より祈っている姿を見ていると、私達が反対に恵みと勇気を貰っている様な気がします。又、当教会の子供達は[イエス様の御旨]と「愛の家」の精神をしっかりと受けとめ日曜以外でも教会に来て、病気や弱い人達のために優しく思い遣りを持って奉仕してくれています。例えば、前号で紹介した奉仕を始め、水槽(金魚)の清掃をはじめ、野宿生活者・失業者に配布する為の食料品(支援者から頂いたパン・お菓子類)等の袋詰めの作業を積極的に楽しみながら奉仕しています。これからも子供達がイエス様の教えを良く守り、命の大切さを知り、立派に成長し次世代の浪速教会の中心となる様に私達信徒一同は心より祈っております。

奉仕者の声

「身近に感じる浪速教会」

（在日大韓・京都教会）許清子

聖霊に導かれ、長いトンネルを歩いて辿りついたところが、浪速教会です。個人的に浪速教会と関わりを持つとは考えてもいませんでした。わたしの生き方は、なるべく人とのつき合いは淡泊に、入り込まない、必要に応じて付き合う、教会は礼拝を終えるとすぐに帰る。シンプルに生きることを第一にしていました。

在日二世の７人兄弟姉妹の５番目として生まれ、両親と姉兄から愛され成長しました。幼い時から教会に通い、結婚してからも夫と共に教会生活を続けることができました。わたしには救われた実感がなく、いつか火のように燃える信仰がやってくるのを待ち望んでいました。いつまで経っても幼いクリスチャンで、浅い信仰の波打ち際にいて、深みに入らないわたしに神さまはプレゼントを贈って下さいました。信仰の友からハーベストタイムの「クレイ」を送って下さり、デポーションをするように言われました。日々聖書を読み、祈り、神と交わらなければ、生き生きしたクリスチャン生活を送ることは出来ないことを再確認し、真剣に始めました。すると一人の強力な信仰の友が現れました。その人が川島美恵子さんです。純粋なひたむきな心を持ち、行動力があり、聡い方です。見えないところで下支えをする彼女にどれだけ助けられたか、感謝が溢れだしています。その川島さんが、浪速教会に月に一回訪問して、とっても恵まれたと毎回報告があるのですから、わたしも行かなくてはという思いが湧き出ました。

浪速教会に初めて訪れたとき、本当にびっくりしました。信徒の手作りの教会を眺めながら、教会とは形ではなくこころの中にあると理解しました。在日の教会が地域に入り込み、共に生活し、喜んで奉仕をしている牧師さん、サモニンに出合い、わたしの心は何か燃えるものを感じました。信仰生活は実践が伴うものだと、キリストがもっとも小さいものに仕えた姿、受けるよりは与えること、見えないところで奉仕し、継続する力がいかに大事かを知りました。食事の奉仕をしている方のチームワークのよさに学ぶことも多いのです。

継続して訪問していますと、喜んで一員として受け入れて下さることが、大きな励みになっています。日々わたしに恵みと新たな力を与えて下さる神さまを褒め称えます。

奉仕者の声

『最も小さい者を愛するイエス』Ⅰ

(浪速教会　牧師婦人)姜　貞　淑

私は日本に来て１４年になりました。その間に体験した、神様の導きがあまりにもふしぎなので、それを皆さんと分かち合いたいと思います。

１９９６年、まず金牧師が観光ビザで日本に来て、私と二人の子供は１年後の１９９７年３月２８日に初めて日本へ来ました。日本宣教の夢を持って大阪にある小さな教会に赴任しました。日本に住んでいる韓国人１０人ぐらいが信徒全員でした。その教会は大きなマンションの一室を借りていたので賛美の音、祈りの声がとなりに聞こえるのは当たり前でした。何回もとなりから苦情があったので、私たちは「自由に礼拝ができる教会堂を与えてください。」と心を一つにして切に祈りました。１日でも早くそのマンションから出て行きたかったのですが、新しい教会堂を借りるお金がなくて困っていました。金牧師と私は韓国から持ってきた全財産を建築献金として神様にささげました。しかし、日本宣教という夢を持って、喜んで海を渡った私たちはたったの１年でその教会を辞任しなければならない試練にぶち当たりました。家に帰る電車の中で我慢していた涙が溢れ、とまらなくなりました。部屋に帰ってからもとまらず、大声で泣きくずれ、その悲しみが何日も続きました。

金牧師はこれからどうすればいいのか、どのようにして家族を食べさせて行くのか、と悩まされていました。ある日、金牧師が私に言いました。「韓国に帰りましょう。知り合いもいないし、日本語も話せない私たちがこのまま日本に残っても、宣教どころか生活もできないかもしれない。」私はこのまま帰ると「失敗者」になってしまうので「帰りません。」とはっきり答えました。「神様の御旨があって、この日本に送ってくださったのだから、とにかく祈ってみ

ましょう。」と言いました。

それから二人は毎日部屋の中で賛美し、聖書を読み、祈りながら神様の御旨がどこにあるのか問いました。あまりにもつらくて我慢できない時は、断食をしながら祈りました。祈れば祈るほど、心に平安が訪れ、希望が見え始めました。

その時、私が読んだ御言葉は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの４つの福音書でした。「イエス・キリストはどのような生涯を歩まれたのか。」をもう一度さぐりながら、そのイエス様に見倣って生きたかったのです。４つの福音書には、イエス様がいつも疎外されている人々に目を向け、その人々のために福音を宣べ伝え、あらゆる病人を癒されたということがたくさん記されていました。私はそんなイエス様に恵まれ、私もイエス様に見倣って生きたいと思い、この日本で最も小さい者とは誰かを考えてみました。そして私は金牧師に言いました。「私たちをこの日本に送ってくださった神様は、私たちにまかせたい働きがあると思います。今、大阪で私たちを一番必要としている人は誰かな。私たちは日本語も話せないので、まず大阪にいる韓国人を伝道しましょう。その中でも最も小さい者は誰かな。やっぱり家族と離れて他国でさびしい思いで働いている日雇い労働者だと思います。彼らにイエス様の愛と福音を伝えましょう。」すると、金牧師も「私も同じ考えです。」と喜んでくれました。

６月いっぱい祈った私たちは、７月１日から西成労働センターに行って伝道を始めました。韓国人日雇い労働者の中でも最も困っている人をさがして、最初に出会った人は、中風で倒れて入院している金さんでした。二人で、話もできなくて、ご飯も食べられない状態の彼のために祈ってあげました。私たちは宣教師としての働きができることが一番の幸せでした。喜びのあまり、毎日病院に行って祈っていたのですが、２週間ほど過ぎたある日、金さんは強制退院させられました。理由は、金さんがオーバーステイであることが病院側に知られてしまったのです。突然の退院で行くところのない金さんを、金牧師が我が家に連れて帰ってきました。狭い部屋で５人が生活することになり、いろいろ不便な点もありましたが、共に礼拝できる信徒が一人生まれた喜びと感謝のほうがまさっていました。金さんは、いつの間にか私たちの家族になり、共に食べ、共に寝、共に礼拝をささげました。金牧師が毎日、金さんに手をおいて祈っていると、神様のふしぎな力で、金さんは日に日によくなり、話もでき、ご飯も食べられるようになり、さらに歩けるようにまで回復しました。元気になった金さんは、感謝のあまり自分の知り合いにも伝道したいと言い、私たちを連れて西成の釜が崎にいき、あっちこっちの知り合いの部屋を訪ね、一所懸命伝道しました。日本で寂しい思いをしていた人々が金さんの伝道で導かれ、一人、二人と我が家にきて共に礼拝をささげるようになり、あっという間に１０人ほどが集まり、狭い部屋がもっと狭くなりました。

そして私たちが教会堂を求めて祈り始めたとき、知り合いの伝道師さんから電話がかかってきました。「金牧師の顔が夢の中で何回も浮かんだので電話をしたのですが、お変わりないですか。」という内容でした。金牧師は日本にきてから今までの出来事を全て話し、教会堂を求めていることも話しました。話を聞いた伝道師さんは、「大阪の桜川に私の家が一軒あって、今は誰も住んでいないのでそこを教会堂として利用してもいいですよ。家賃は払える分だけでいいですよ。」と言ってくださいました。私たちの祈りにこんなにも早く答えてくださる神様に感謝して、早速その家に行ってみました。三階建ての一軒家で、当時の狭い部屋と比べると宮殿のようでした。１階を教会堂としてリフォームするためには 100 万円ほどのお金が必要でした。私たちが頼るべき方は、ただ神様だけなので、また祈り始めました。するとある日、当時、関西地方会の会長だった朴米雄先生のおかげで、地方会から開拓資金として４０万円の支援をいただき、リフォーム工事を始めました。４０万円で足りる工事ではありませんでしたが、知り合いの建築業者さんが安い値段で工事をしてくれました。きれいにリフォームしてできた新しい教会堂に「在日大韓基督教会　浪速教会」と看板をかかげ、私たちは喜び踊りながら引

（次号に連載）

広告

第１４回「愛の家」運営委員会ご案内

日時：2011年４月11日（月）午後２時
場所:　浪速教会

2011年　３月　30日
在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」運営委員会
共同委員長　森田幸男牧師
金　安弘牧師
総　　務　金　鐘賢牧師
書　　記　全　聖三牧師

《2011年度「愛の家」運営委員会組織》

共同委員長：森田幸男、金安弘
総　　務：金鐘賢
書　　記：全聖三
財政部：部長-金安弘、大木正典、森元孝
宣教部：部長-朴栄子、金武士
協力部：部長-李清一、全聖三、金鐘権
奉仕部：部長-孫夏景、森田幸男、　梁守延
広報部：部長-森優紀慶、伊藤友彦、金鐘賢
監　査：金武士、伊藤友彦

集会参加者人数(2011年１月～3月)

	1月	2月	3月	合　計
日曜　集会	386	302	381	1,069
木曜　集会	352	353	490	1,195
金曜炊き出し	628	509	609	1,746
夜間パトロール	250	170	209	629
計	1,616	1,334	1,689	4,639

単位：人

《夜間パトロール》2p写真⑦

今年も路上生活をしている人達の為の夜間パトロールが11月から始まりました。このパトロールは毎週金曜の夜、8時半からお握り・味噌汁・毛布・カイロ・衣類等を車に乗せ、所定の場所に行きます。すると、「ありがとう、助かるよ。」と、暗く沈んでいた顔が一変して明るい顔になり、弾んだ感謝の声が返ってきます。この厳しい不況の折、今は50人分のお握り・味噌汁しか配布できません。それでも時々人数が増えて、足りなくなる時があります。その折は心が痛むのを覚えます。又、これからは寒さが厳しくなる時期ですので、健康状態のチェックもしつつ、どうしても路上でその晩に眠れない程、衰弱している兄弟がいたら「愛の家」の宿舎を提供する場合も有ります。尚、配布している毛布・カイロ・衣類等は全国の多くの支援者から送って頂いた品物です、大変感謝致しております。此れからも、暖かい御支援をお願いします。

「愛の家」会計決算書(2010.4～2011．3)

収入	10予算	決　算	
定期後援会	1,300,000	978,000	
一般後援会	1,500,000	1,474,300	
クリスマス献金	1,000,000	564,000	
食事献金	2,900,000	2,452,700	
総会支援金	500,000	500,000	
御米献金	400,000	685,009	
小計	**7,600,000**	**6,654,009**	
繰越金	257,404	257,404	
合計	**7,857,404**	**6,911,413**	
支出			
事務・備品費	630,000	294,749	
交通費	100,000	28,050	
車両維持費	300,000	231,520	
奉仕者支援金	900,000	970,559	
研修費	150,000		
御米代	1,400,000	859,500	
副食費	2,600,000	2,670,643	
会議費	30,000	13,000	
修理施設費	50,000		
愛の家建築積立金	1,500,000	1,000,000	
救済費	50,000	4,000	
予備費	147,404	30,000	
小計	**7,857,404**	**6,102,021**	
繰越金		809,392	
合計	**7,857,404**	**6,911,413**	

「愛の家」建築会計決算書(2010.4～2011．3)

収入	１０予算	決　算	備考
建築献金(国内)	3,000,000	3,238,000	
建築献金(海外)	3,000,000	125,000	
アルミ集会献金	200,000	143,595	
教会建築積立金	300,000	1,000,000	
愛の家築積立金	1,500,000	1,000,000	
地方会支援金	600,000	600,000	
福祉部屋献金	3,400,000	2,885,468	
小計	**12,000,000**	**8,992,063**	
繰越金	3,446,506	3,446,506	
収入合計	**15,446,506**	**12,438,569**	
支出			
銀行融資返済金	8,500,000	3,800,097	
エクロフ融資返済金	2,100,000	2,070,000	
リフォーム工事代	500,000	403,680	
募金交通費	400,000	0	
諸経費	200,000	0	
福祉館会計預かり金			
教会債返済金			
小計	**11,700,000**	**6,723,777**	
繰越金	3,746,506	6,164,792	
合計	**15,446,506**	**12,438,569**	

負債現況（2011年3月31日現在）

教会堂「愛の家」センター建築

銀行融資金	21,860,000 円
エクロフ融資返済金	6,000,000 円
教会債	3,800,000 円
合計	31,660,000 円

野宿生活者支援のための

イースター献金のお願い

東日本大震災が起こり１ヶ月が経ちました。国内だけでなく世界が被災者の皆さんと痛みを分かち合い多くの人が支援に加わっています。「愛の家」も募金活動をし、ボランティアを送り支援に協力しています。

私達は大震災の中でも炊き出しをやめられません。なぜか分からないけど今現在「愛の家」の集会や炊き出しに参加者が増えています。４月８日金曜炊き出しには雨にも関わらず 130 人が参加しました。「愛の家」に助けを求めて身を寄せる兄弟達がいる限り、何があっても「愛の家」は炊き出しを続けなければならないと思っております。

1997 年から始まって 14 年間「愛の家」は、大阪において炊出しを始め路上生活者への支援活動を続けて来ました。国を挙げて震災を克服するため皆で頑張るこの時期、私達の「愛の家」事業も忘れないで継続して支援を頂けますようお願い致します。

現在、私たち「愛の家」では、週３回炊出しを実施しております。金曜炊出しには約 250 人が来られ、日曜礼拝や木曜集会にも約 120 人が来られます。私達が毎日３食を食べて行くことを感謝し、「愛の家」に来られる野宿生活者達も一年間少なくても週３回の食事が食べられるように皆様の熱いご支援をお待ちしております。

現在、毎週炊出し費用として 69,000 円が支出されています。

（お米 130kg・39,000 円、副食費３0,000 円、合計 69,000 円）

今年も、『愛の家』は皆様と共に神から任された「愛の業」を担おうとしております。

「愛の家」へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

「愛の家」事業：金曜炊出し、木曜集会と食事会、日曜礼拝と食事、散髪奉仕、共同生活、
聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、冬季夜間パトロール、生活用品収集分配

郵便振替： 00930-0-299392　　在日大韓基督教会　浪速教会

送り先：〒557-0061　大阪市西成区北津守 3-2-3 浪速教会「愛の家」
Tel, 06-6561-4712　　Fax,656１-4709、
E-mail:ainoie@msn.com　　ホームページ：www.ainoie.org

2011 年４月

在日大韓基督教会　浪速教会・「愛の家」
共同委員長　　森田　幸男　牧師
共同委員長　　金　安　弘　牧師
総　　務　　金　鐘　賢　牧師

献金者お名前（敬称略・順不同）

（2010年12月～2011年3月）

定期後援金： 関西地方会社会部、大阪教会女性会、石井洋二、豊中第一復興教会、金鐘賢、川島美恵子、許清子、森元孝・金英姫、大阪東南教会、古川富也・知恵子、大垣教会、山本覚、嶺洋一、匿名

一般後援金： KCCJ 総会、大阪築港教会、韓国シオンの光教会宣教チーム、関西地方教会女性連合会社会部、関西地方教会女性連合会、福岡教会、南大阪教会、韓国大田永楽教会宣教チーム、韓国テグ三徳教会宣教チーム、韓国オサン長老教会宣教チーム、神戸日韓交流会、阿武山福音自由教会、大阪北教会、穂別キリスト教会、高山加古六、全聖三・咸美羅、李光世、野津道代、茅ヶ崎東教会婦人会、金君江、金玉礼、金景淑、金鐘賢、伊藤、李清一、匿名

クリスマス献金：関西地方会社会部、西部地方会女性会、在日本韓国YMCA, 全国教会女性連合会、神戸教会、福岡中央教会、大阪西成教会、豊中第一復興教会、神戸東部教会、向上社保育園、京都教会女性会、永和教会、布施教会、高槻伝道所、博多教会、武庫川教会女性会、武庫川教会、京都教会、京都南部教会、大阪北部教会女性会、広島教会、平野教会、高松伝道所、岡山教会、大阪東南教会、東京蒲田教会、広島教会女性会、横須賀教会、宇都宮松原教会、滝川教会、吉田教会「教会と社会」委員会、東京綾瀬教会、横浜海岸教会、南浦和教会、大阪姫松教会、西宮中央教会、苫小牧教会「愛隣会」、福岡城南教会、杉浦ちゑ、島内敏子、岡田明美、法本誠、宮澤玲子、古川富也、金吉雄、山本覚、佐藤栄一・悦子、韓享春、田部郁彦、

建築献金： 関西地方会、金鐘賢・姜貞淑、金斗賢・善栄、大木正典、岡野正人、竹内清、久保賢太郎、山下博行、井上豊、宮澤玲子、森田幸男・孝子、山本覚、小松満、石和怜、韓国テグ三徳教会宣教チーム、韓国オサン長老教会宣教チーム、匿名、

お米、お米献金：大阪北教会 関西フードバンク、布施教会青年会、洲本チャペル、池本恵、古川富也、六信みどり、田部郁彦、李元泳、崔愛蘭、小林勝、宮澤玲子、島内敏子、

食材： 関西フードバンク、久保賢太郎、匿名

衣類、生活用品：グッド・サマリタン・チャーチ、豊中第一復興教会、永和教会、六信みどり、 京都教会、京都南部教会、阿武山福音自由教会、川島美恵子、許清子、田部郁彦、平田健二、匿名

「愛の家」センター 建築ニュース

教会堂及び「愛の家」センターが建てられ今年で 4 年目になりました。最近、「愛の家」室内ででの集会はほぼ満員になっています。寒さ、暑さ、雨や風から身をしのげることができるからか木曜日の場合は 8 時 30 分会場を開ける前から皆が待っていて開けたときには半分以上の人が入ります。「愛の家」行くところのない多くの家の無い兄弟達の陰となっていることに感謝しております。

2010 年 4 月行われた「愛の家」運営委員会では建築後5年目である 2012 年末まで借金全額返済完納する目標を建てました。2011 年３月３１日現在、「愛の家」建築負債は 31,660,000 円でありますが残金 6,164,792 円ありますので実際の負債は 25,495,028 円になります。

「愛の家」建築負債現状 （2011 年3月３１日現在）

負債	31,660,000 円
－残金	6,164,792 円
実際の負債	25,495,028 円

残金を待って銀行融資金の元金を返すために交渉しております。そして融資金元金の返済が難しければ教会債 380 万円を先に返したいと思っています。

2010 年 12 月から 2011年3月の間もある匿名の方よより 50 万円を始め、多くの方々が建築募金に協力してくださいました。相変らず集会に参加する野宿生活者の皆さんもアルミ缶献金に協力して下さいました。浪速教会も節約して一般財政から 100 万円建築に回しました。

私たちは、2012 年度までは、建築負債の返済が終わり軽い気持ちで「愛の家」の「愛の業」へ取り組むことが出来るように願っております。2012年末で「愛の家」センター建築負債全額を返済できるように皆様のご協力お願いいたします。

皆の力で
愛の家センターを共に支えましょう!!

国内募金目標額： 1,000 万円

☆建築献金お願い致します。

①年 1 口 5000 円以上 ②毎月 1 口 1000 円以上
③各教会、団体、組織別の建築献金
④遺産の寄付

発行責任者 金鐘賢・森優紀慶
発 行 所 「愛の家」広報部
〒557-0061 大阪市西成区北津守 3-2-3
浪速教会「愛の家」内
TEL 06-6561-4712(教会)
FAX 06-6561-4709(教会)
E-mail: ainoie@msn.com
ホームページ: www.ainoie.org
郵便振替口座：在日大韓基督教会浪速教会
00930-0-299392